



## 消毒薬の使い方

先月、メキシコや米国などで豚由来の新型インフルエンザの感染者が多数発生し、WHOでは、連続的に人から人への感染が見られるとして、4月28日にインフルエンザ・パンデミック警報のフェーズ4を発令。その2日後の4月30日には、フェーズ5に引き上げられ、空港での検疫体制もとられました。5月11日には、日本でも感染者が発生し、発熱相談センターおよび発熱外来が設置され、神戸市内の学校では休園、休校、集会の自粛などの対策がとられました。

インフルエンザの予防としては、手洗い、うがい、マスクの着用が推奨されましたが、感染者のせきやくしゃみの飛沫を直接吸い込まなくても、飛沫の付着した所を手で触ってしまうことがあるため、消毒薬による手洗いが特に重要です。

消毒薬は、微生物やウイルスを科学的機序によって死滅させ、感染力を失わせます。その効果は濃度、温度、PH、有機物の有無、微生物の感受性でも異なります。

### ■消毒薬の種類

・高水準消毒薬 フラタール  
すべての微生物を死滅させる

・中水準消毒薬 エタノール  
ウイルス、結核菌、真菌に

・低水準消毒薬 塩化ベンザルコニウム  
ほとんどの栄養型細菌に

### ■消毒用エタノールの使い方

手指の消毒は、速乾性擦式消毒用アルコールのポンプタイプのもので手のひらと甲、指の間、手首に十分擦り込んで、タオルなどでふかずに自然に乾かしてください。

患者が接触した個所の消毒は、患者の手に触れた所、机、いす、ドアノブ、手すり、照明器具のスイッチ、電話機、洗面まわり、トイレの便座、床などを、消毒用エタノールを十分に

染み込ませたタオルやぞうきんでふき取り、その都度ビニールの袋に密閉して捨ててください。噴霧タイプは霧状のため、ウイルスが付着した個所から舞い上がって飛散し、それを吸い込んで感染する危険や付着した個所の消毒も不完全になるので使用しないようにしましょう。

その他の消毒薬として、**食器**、**リネン**、**衣類の消毒**は、次亜塩素酸ナトリウム（ハイター、ブリーチ）、**食中毒予防**には、塩化ベンザルコニウム、**傷があるときは**イソジンやマキロン、**傷口が汚れているときは**オキシドールを使用してください。

最近いろいろな「除菌剤」が出回っていますが、消毒薬として認可されていませんので、必ず消毒薬を使うことをお勧めします。

※6月号にあった「登録販売員さん」の記述は、法的には「登録販売者」を指します。